

1 アントレプレナーシップ教育（起業家精神教育）を踏まえた指導法の模索

(1) アントレプレナーシップ教育 起学

当研究員会は、アントレプレナーシップ教育（起業家精神を育成する教育）が起業家精神と起業家資質・能力を涵養する教育であると定義し、それぞれの求める能力を実現する指導法を次のように考える。

・チャレンジ精神 積極性・主体性 創造性 知的探究心 自立心 感性

プロジェクト学習

・コミュニケーション能力 チームワーク力 リーダーシップ 情報収集・分析力
企画力 規範能力 問題解決力 判断・実行力 プレゼンテーション能力

グループ学習

アントレプレナーシップ教育の求める能力いわば「生きる力」をつけるためには、自然体験・文化体験・社会体験などを教育の中へ持ち込み、その体験を通して学習のリアリティ化を図ることが求められる。そこから生徒は自ら学ぶことの意義や必然性を考え、学ぶ意欲を高め、「生きる力」を涵養させることになる。

以上のことから、アントレプレナーシップ教育は、学びを起こす「起学」といえる。商業科の教師にとっては、「商業の学び」を手段とし、やる気を引き出すことが大切である。

(2) 流通ビジネス分野科目群の指導方法 = 起学のワークショップ型授業

「ビジネス基礎」の指導に当たっては、商業を学ぶ目的と学び方を指導するとともに、商業の各分野について特色や科目の内容について触れ、商業の学習の動機付けを図ることを重要視している。そのため、教科書にはとらわれず、「教科書を教える」指導から、創意工夫で「教科書で教える」というスタンスでの展開が望ましいと考える。流通ビジネス分野科目群（「商品と流通」「商業技術」「マーケティング」）にも同様なことが言え、その指導法としてワークショップ型授業が最適と考える。

ワークショップ(workshop)という英語のもともとの意味は、「工房」「作業場」など、共同で何かを作る場所を意味している。この興隆は、インターネットの急速な広がりや視聴者参加型のテレビ・ラジオ番組やイベントの普及などに見られるような、「専門家や一部の権力者による知や情報の独占からの解放」「一方的に受け取るだけでなく、自らも参加する双方向性への希求」などの世界的な流れに呼応したものである。分野や人によって、「ワークショップ」という言葉も様々なニュアンスで使われているが、ここでは「ワークショップ型授業とは、講義など一方的な知識伝達のスタイルではなく、生徒自らが参加・体験し、グループの相互作用の中で何かを学びあったり創り出したりする、双方向的な学びと創造のスタイル」と定義する。

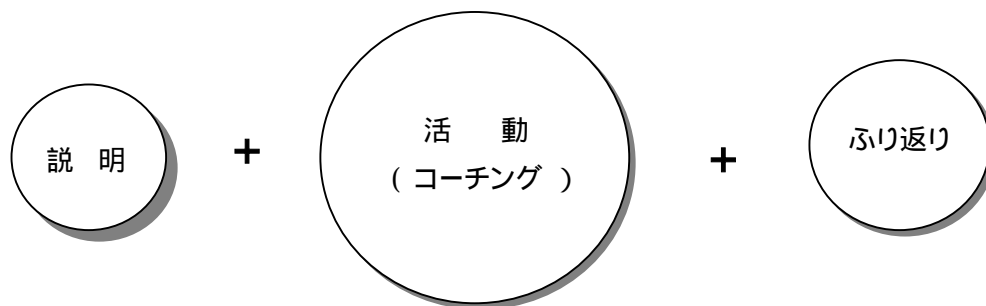
ワークショップ型授業には、楽しく、歓びがある。いろいろと夢中になって体験に取り組み、人と協力し、議論し、触れあいの中で、新しい自分に出会い、単なる知の伝達だけでは起こり得ない「心の豊かさ」が実感できる。また、一つの正解や画一的なモデルに向かう学習と異な

り、それぞれの違いや多様性が学びや創造性を豊かにしていくことになる。そのことで、他者のありのままを受け入れ、自分のありのままを正直に表現することができるという意義を持っている。

さらに、主体性が育まれることである。単に受け身でなく、積極的な参加で場全体が未知の世界へとどんどん動いていくことを体験することはやりがいがある。黙っているより、少しリスクを冒し、自ら発言し、表現し、行動する中で、自分の小さな一言が場を動かし、それを知ることが、主体性を育てていく上でも大きな意義を持っている。

(3) ワークショップ型授業の具現化

ワークショップ型授業の基本構造(授業モデル)は、「説明(導入) + 活動(展開) + 振り返り(終末)」である。図示すると次のとおりである。



ワークショップ型授業では、最初に「活動のルール」を明確に説明し、その後、生徒たちの「自由感」を確保するため、できるだけ介入しないようにする。生徒たちは「活動のルール」を明示されることによって、そのルールの範囲内で「試行錯誤」をくり返す。

生徒の試行錯誤の活動を「思考の跡」として取り出し、体験的な学びを言葉にすることにより「振り返り」の活動をする。

ワークショップ型授業は、このような「教師の説明(時間)の少ない」「自ら学び自ら考える」授業を実現することができ、学力形成のベースである「関心・意欲・態度」「思考・判断」を育てることができる。

上記のような学力をもとにし、「話す」「聴く」「書く」「読む」などの力を育てる。直接、それらの力を教えるのではなく、その力のベースになるものを活性化するのがワークショップ型授業である。

しかし、すべての授業をワークショップ型で実施する必要はない。単元構想の中で、知識を系統的に効率よく生徒たちに学習させるには、「説明中心の授業」や「発問中心の授業」などのような知識注入型の授業も必要である。

以上の考えから、科目「商品と流通」「商業技術」「マーケティング」にワークショップ型授業を活用し展開することを想定した。